

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 山田 武宏

改訂日 2024年2月26日

作成日 2021年3月9日

【責任】

薬学部薬学科において、薬物治療などの臨床薬学領域の教育・研究を行っている。主な教育活動として、臨床系薬学の講義「薬と疾病（感染症および神経疾患）」「臨床薬学総論」等の薬物治療に関する内容のほか、「医療統計学」、ならびに臨床薬学実習、共用試験委員長、卒業研究ゼミ生の研究指導、クラス担任、卒業研究ゼミ・グループL責任者、卒後生涯学習教育講座などがある。

【理念】

私の教育理念・理想は、学生が「自身の将来に対して常に向上心を持ち、患者や医療者から信頼される薬剤師となるべく、継続して学び、問題点解決を提案する姿勢を身につけること」である。複雑・高度化する医療において、薬剤師が専門性を発揮するためには、研究マインドを持つこと、すなわち臨床における疑問点・問題点の発見からその解決に至るまでのプロセスを示すことのできる能力が重要である。そのためには、自身も研究者としてそのシーズを臨床から掘り起こし、解決に取り組む姿勢を持ち続ける努力を続けていく。

【方針・方法】

上記の教育理念を達成するために下記の方法を方針として挙げる。既存の内容については、実際の薬物療法との繋がりを持たせながら各担当科目の授業内容をわかりやすく伝えることで、国家試験の実践問題への対応が可能となる。また、臨床で提起される疑問点・問題点の解決能力の養成については、卒業研究を行う過程でその基礎を学んでいただく。また、演習や対話形式の講義も適宜取り入れ、学生が主体的に薬物療法に関わる基礎力を醸成できるように努力していきたい。

「実践能力を養成する」

国家試験で問われる内容も踏まえ、薬剤師業務の実践において、どのようにその知識・技能が関連し、あるいは役立つのかを意識して講義を展開する。患者の薬物治療を計画できる能力を養成するために、症例ベースの演習を適宜講義に取り入れ、主体的に薬物治療に関わるとはどのようなことなのかを知ってもらう。

一方で、自身は所属する学会での発表や研究を継続しながら、最新の臨床薬学に関する情報を常にアップデートし、自身が保有する専門認定資格（抗菌化学療法認定薬剤師、インフェクションコントロールドクター等）も更新維持し、臨床薬剤師業務の現状を学生に対して伝えることに努める。

「学生が、新たな臨床エビデンス創出のためにはどうすれば良いか学ぶ機会をつくる」

臨床薬学領域や医療現場において発生した疑問点・問題点を卒業研究のテーマとして設定し、その解決に向けた課程においてデータを取り、解析し、提案するための手助けをする。また、

自身が講義内で示せる臨床エビデンスの構築も継続することで、自らがその手本となることを示す。

「学生が将来の仕事に夢をもつ」

国家試験合格後も見据え、薬剤師として生涯モチベーションを高く維持しながら学んでいけるように、講義内容に実際の薬剤師業務との繋がりを持たせた授業展開を行う。また、常に変化する医療の最新情報を提供できるよう常に自身のスキル、知識を更新している。

【成果・評価】

授業アンケートによると、知識の活用と実践の目的で授業中に実施した演習に関して、好意的な意見がみられた。また、授業ハンドアウトのパワーポイント資料についてわかりやすいとの声があった。本学新卒者の薬剤師国家試験合格率は全国平均を上回っている。演習形式の講義では、受講した学生から「実務実習で学んだことを実践できる場があり、大変良かったと思う」「ガイドラインに基づいた抗菌薬のマネジメントプランを自分で立てるのが楽しかった」「現場で活かせる知識を得ることができた」「症例を元にどのように患者と向き合うべきかと共に、今後に役立つ知識をマネジメントプラン立案から学べるように講義が組み立てられていたと感じた」との感想があり、一定の成果が得られたと考えられる。

医学部講義においては、自身の講義が学生投票によるエクセレント・ティーチャー賞を2度受賞した（北海道大学医学部）。さらに本学赴任後も日本薬学会北海道支部から医療薬学貢献賞（教育分野）を受賞した。

また、自身が担任となり卒業した学生はこれまでに全員が卒業までに研究成果を学会で発表している。うち2名は英語での臨床研究論文の成果発表に繋がっている。

「自身が講義内で示せる臨床エビデンスの構築も継続する」ことを方針の1つとして掲げているが、本学赴任後も臨床研究論文が毎年アクセプトされ、そのうちいくつかはガイドラインにも引用されている。

【目標】

〔短期目標〕

- ・ 授業アンケートを参考に授業の内容見直しを継続して行い、臨床との接点や実践をイメージできる授業を展開する。
- ・ 本学全体としての薬剤師国家試験合格率を上げる。
- ・ 特に医療現場における問題点や疑問点を掘り起こし、その課題解決の糸口となる研究・調査を中心に卒業研究テーマを設定する。成果は論文として公表することで、自分たちや同業者が困ったときの情報源となるため、エビデンス構築の重要性を学生にも実感してもらう。

〔長期目標〕

上記を踏まえ、本学卒業生が医療現場での各チーム医療実践において、薬の専門家として関わる機会を増やすことである。卒後5年程度経過後には、目標とする専門領域を有し、相応の認定・専門薬剤師資格を取得し、薬物療法においてチーム医療で活躍する薬剤師を増やしたい。